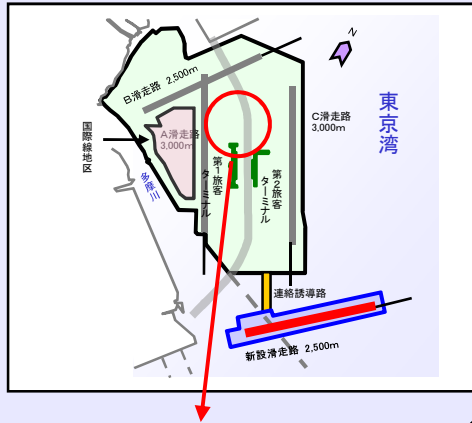


羽田空港における新管制塔の運用開始と効率的な管制運用の実施について

今後の羽田再拡張事業や成田のB滑走路北伸事業等により、首都圏空港の容量は拡大。



新管制塔の運用開始!!(H22.1.12)

【新管制塔の特徴】

- 新滑走路(D滑走路)を含む空港全体の視認性を確保。
- 機器の形状・配置を工夫。ヒューマンエラーの抑止を図り、管制業務を効率化。
- 免震装置と制振装置を備えた剛性の高い鉄筋コンクリート構造により、管制塔自体の安全性が向上。

視認性
抜群!!



(新管制塔からD滑走路方向を見た眺め)

新管制塔=115.7m



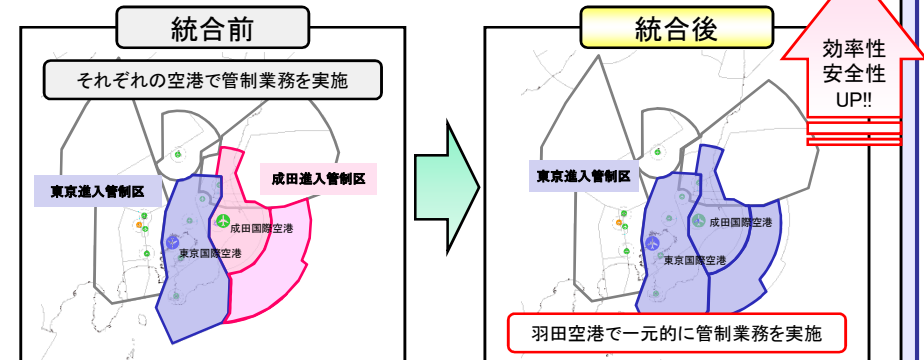
現管制塔=77.6m

ターミナル管制所
(庁舎内)

羽田と成田の空域を統合し、一元的に管制を実施!!(H22.1.14)

【空域統合の効果】

- 両空港周辺の空域に係るターミナル・レーダー管制業務を一元的に実施することで、空域の有効活用や業務調整の円滑化による効率的な管制業務が実施可能。



航空機運航の一層の安全性向上を図りつつ、管制業務の更なる効率化により、首都圏空港の容量拡大に対応。